

合掌をしましょう

がっしょう
・合掌とは・・・私たちの心の中に存在する「仏に成るための種」を育てるのを手助けするための行為です。

■ 合掌の効能 ■

- ・本尊に合掌すれば信心しんじんとなります。(仏壇に手を合わせましょう)
 - ・父母に合掌すれば孝養こうようとなります。
 - ・年上に合掌すれば敬慕けいぼとなります。
 - ・事物に合掌すれば慈愛じあいとなります。
 - ・自分に合掌すれば修養しゅうようとなります。
 - ・お互いに合掌すれば幸福こうふくとなります。
- 「日蓮宗宗務院発行パンフレット」より抜粋



■ 合掌とお題目 ■

がじんきやうにやうとう ふかきやうまん しよいしやが にやうとうかいぎやうぼさつどう とうとくさぶつ
我深敬汝等 不敢輕慢 所以者何 汝等皆行菩薩道 当得作佛
じやうふきやうぼさつほん
(妙法蓮華經常不輕菩薩品第二十)

[書き下し文]
われふかか なんじら うやま あえ かる あなど ゆえ いか なんじらみなぼさつ どう ぎやう
我深く汝等を敬う、敢えて軽しめ慢らず。所以は何ん、汝等皆菩薩の道を行
じて、当に作仏することを得べし。

[現代語訳]

私は深くあなた方を敬います。軽んじたりあなどったりしません。なぜならば、あなた方はみな菩薩の道を行じて、必ず仏と成ることができるからです。

[解 説]

- 1、仏教の基本は、両手を合わせる合掌がっしょうにあります。仏壇に向かい合掌してお題目を唱え。食事の時には「いただきます」と合掌し、あいさつの時にはお互いが合掌し合います。
- 2、常不輕菩薩は身分や階級で人を区別つることなく、会う人ごとに合掌して相手を敬い「あなたは仏に成ります」と言っでは迫害を受けました。日蓮聖人は上記の常不輕菩薩品の経文と南無妙法蓮華経のお題目は同じ意味合いと述べられています。
- 3、南無妙法蓮華経と唱えることにより、人々の心の中にある仏性ぶつしょう(仏に成るための種)を目覚め育てさせ、お釈迦様と同じ仏になることができます。
- 4、誰でもが、仏となる種(仏種)を持ち合わせています。どんな人でも軽んじてはいけません。
- 5、お互いが合掌し敬い合うことは、お互いが持ち合わせている「仏の種」を拝み合うことになり、お互いに功德を積むことができます。そして、心が安らかになり幸せな人生を送ることができます。
- 6、好きな人だけでなく嫌いな人にも合掌することが、自らの修行にもなり徳を積むことになります。
- 7、食事をする時にも合掌をしましょう。肉・魚・米・野菜など生きている物の命を頂いています。感謝と供養の気持ちを込めて合掌して下さい。